

第二期中期目標期間(平成23～27年度)における事業年度評価について

※評価指標についての説明【分野別評価】

S:特筆すべき進行状況 A:計画どおり B:概ね計画どおり C:やや遅れている D:重大な改善事項がある

年度	全体評価の内容	分野別評価結果	
平成27年度	<p>○教育、研究、社会貢献、管理運営の各分野とも意欲的な取組みにより、中期計画・年度計画を着実に実施し、改革・改善が進み、総合的に高く評価できる。</p> <p>○教育分野では、地域人材の養成と同時に、グローバル人材養成にも積極的に取り組んでおり、留学生の受入れや学生の留学など、教育の国際化も高く評価できる。また、ソーシャルビジネス系分野の重点化などにも取り組み、着実な成果を上げている。成果指標も明確で、成果を可視化している点も高く評価できる。就職率も非常に高く、就職支援体制も整備されている。学部入試における実質倍率については前年度比で上昇するなど改善が見られるが、更なる努力が期待される。一方で、大学院定員充足率の未達が引き続いて課題であり、社会のニーズを十分勘案して、根本的な見直しをする必要がある。</p>	I 教育	B
	<p>○研究分野では、大型研究の獲得など、順調な成果を上げている。新規創薬の研究開発、介護ロボットシステムの開発など、次世代産業の創出・既存産業の高度化に資する研究が進展しており、またそれを支える体制も新たに構築されており、高く評価できる。北九州地域のシンクタンクとして、地域に関する調査研究が進められ、またその研究成果の地域への還元も適時行われており評価できる。市や地域の政策策定に関連する研究や、地元産業界との連携研究、市民生活の「質」の向上に寄与する研究のさらなる発展を期待する。一方、長期的な外部資金の減少傾向を認識し、若手研究者の資金獲得能力の向上に資する施策が必要である。</p>	II 研究	A
	<p>○社会貢献分野では、教育・研究活動と密接に関連した取組みが展開され、特に顕著な実績を挙げている。具体的には、地域連携による市民活動の促進、小・中・高連携による地域の教育力向上、大学間連携による地域の教育研究機能の高度化などの地域貢献、留学生受入れの諸活動、海外派遣留学の活発化などの社会貢献、海外大学との交流による国際貢献等の活動が継続的に幅広く実施されており、高く評価できる。また、地域大学間のコンソーシアムについては、文部科学省の補助事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に代表校として申請し、採択されるなど、リーダーとしての存在感を示している。今後、グローバル化や少子高齢化、地域創生などに対する新しい発想の活動と、更なる発展を期待したい。</p>	III 社会貢献	S
	<p>○管理運営等分野では、学部長等の業績評価、戦略的予算配分、事務局業務の効率化など学長のリーダーシップの下に大学ガバナンス改革が進められ、計画が着実に進捗している。また、プロパー職員の採用やスタッフ・ディベロップメント、ファカルティ・ディベロップメントの実施など、組織マネジメントは順調に改善されている。一方、地方独立行政法人として独立性をもった予算編成、あらゆるリスクを想定したリスクマネジメント、ICT戦略については、今後の課題として認識する必要がある。</p>	IV 管理運営等	A

第二期中期目標期間(平成23～27年度)における事業年度評価について

※評価指標についての説明【分野別評価】

S:特筆すべき進行状況 A:計画どおり B:概ね計画どおり C:やや遅れている D:重大な改善事項がある

年度	全体評価の内容	分野別評価結果	
平成26年度	<p>○理事長・学長のリーダーシップのもとで、大学運営の全般にわたって努力をしており、中期計画・年度計画を順調に実施し、改善が着実に進んでいると評価できる。なお、大学運営の長期的な展望を明確にし、将来ビジョンを確立して、それに向かって有効な施策を順次展開することを期待したい。</p> <p>○教育分野では、多種多様な活動を実施し、成果を挙げている。特に語学教育においては、「グローバル人材育成推進事業」等によりその体制が整備されるなど、順調に進捗している。また、就職決定率も平成元年以降最高水準となる98%を達成し、高く評価できる。一方、入学志願者倍率の目標設定のあり方や長年の懸案である大学院定員充足率については、大学の役割も含めて社会状況も考慮した検討が必要である。</p> <p>○研究分野では、先進的な研究・開発や新しい試みも実施され大いに成果を挙げており、高く評価できる。研究成果の地域社会への還元も積極的に行われており、今後もその成果に期待したい。</p> <p>また、大型研究費の獲得へ向けた努力は評価できるが、なお国や産業界からの資金獲得に更なる努力が必要である。</p> <p>○社会貢献分野では、地域共生教育センターやまちなかESDセンター等の活動が活発に行われており、社会貢献に大きな役割を果たしている。また、留学生の派遣・受け入れや国際交流も活発であり、地域全体の国際化に貢献している点や、地域のシンクタンクとしての役割を果たしている点も評価できる。今後、さらに北九州市立大学の個性を活かして、多様な取組みを連携させることにより、人としての深みを持つ人材を育成し、地域の発展につながる活動を推進することを期待する。</p> <p>○管理、運営分野では大学の戦略に応じた組織の見直しが適時行われ、組織自体も実行力のあるものとなっており、組織の自己評価も有効に機能していることが評価できる。なお、予算方針会議の充実を図るなど財務運営に関する認識を高め、目的積立金・積立金・基金それぞれの性格と用途を明確にする必要がある。</p>	I 教育	B
		II 研究	A
		III 社会貢献	A
		IV 管理運営等	A
平成25年度	<p>○理事長・学長の強いリーダーシップのもと、平成25年度も計画の達成に向け、様々な取り組みにより大学運営の改善や効率化が実行されていることは高く評価できる。昨年の課題に対しても、長期的視点と、短期的視点の両方で迅速に対応されている。社会でニーズの高い「グローバル人材」の育成や、「地域活動」「環境活動」の教育や研究が成果を上げており、市立大学としての役割を果たす努力もなされている。</p> <p>○教育分野では、文部科学省の補助事業である「グローバル人材育成推進事業」を中心に、その他にも多種多様な教育活動を実施し、成果を挙げつつ、ほぼ計画通りに進捗している。一方で、一般選抜入試の志願者が2年連続で減少していることが懸念材料である。18歳人口の減少など社会環境の変化を踏まえ、入試のあり方の検討を進めるとともに、入試広報戦略などにより大学の魅力をPRし、優秀な志願者・入学者が増えるように、より一層努力していただきたい。大学院教育については、定員の充足などの改善は見られる。しかしながら、基本的な方針と育成する人材像について卒業後の進路も含めて本質的な検討を行っていただきたい。</p> <p>○研究分野に関しては、先進的な研究・開発や地域課題研究さらに附属研究機関による研究拠点の形成など、質的水準も高く、計画以上に進行していると評価できる。今後、さらに北九州市の新しい都市政策をリードする研究を進め、北九州市の発展に結びつけていくことを期待する。</p> <p>○社会貢献分野では、「地域共生教育センター」、「まなびとESDステーション」等の諸活動、大学間連携共同教育推進事業などにより社会貢献も大いに進められている。</p> <p>○管理運営分野についても、実態に応じた組織変更が行われ、計画が円滑に実行される体制となっている。また、外部研究資金については、目標を上回る額を獲得しているものの、減少傾向である。専門的な部署と職員を活用などを検討されたい。認知度向上プロジェクトについては、計画段階であり、今後その実行に期待したい。</p>	I 教育	A
		II 研究	A
		III 社会貢献	A
		IV 管理運営等	A

第二期中期目標期間(平成23～27年度)における事業年度評価について

※評価指標についての説明【分野別評価】

S:特筆すべき進行状況 A:計画どおり B:概ね計画どおり C:やや遅れている D:重大な改善事項がある

年度	全体評価の内容	分野別評価結果	
平成24年度	<p>○理事長、学長のリーダーシップとそれを支える組織が整備されており、実行力のある体制となっている。大学執行部の改革意欲も高く、全般にわたって計画は順調に実施されていると評価できる。</p> <p>○教育分野では、「地域共生教育センター」「まなびとESDステーション」の運営など、多様な取組みは大いに評価できる。これら地域をフィールドとした体験的学習の機会の提供、他大学との連携など、積極的で個性的な活動は、より豊かな人材を育てる重要な役割を果たすものと考ええる。一方で、大学院教育においては、教育内容や受験状況などの改善はあるものの定員の充足などの課題が残る。中期計画期間に当初の成果が得られるように更なる取組みに期待する。</p> <p>○研究分野の個別年度計画も着実に遂行されている。また、市立大学という大学の役割から、各種の調査・研究、論文発表や研究開発などの成果が発表会やシンポジウムの開催に止まらず、市の施策への提言、地域の民間企業との共同研究開発など、市民の生活の質の向上に直結することを期待する。今後とも、優れた研究者・教育者の育成と招致を充実させ、研究と教育の水準向上に努められたい。</p> <p>○社会貢献分野について、海外派遣留学計画など国際化は順調に進捗している。長期戦略をもってさらなる推進を期待する。また、さまざまな実践的人材育成事業の実施など活発な地域貢献活動は高い評価に値する。今後とも、地域に根ざした大学として、さまざまな活動を通じて、より多くの有望な学生が北九州に就職するような仕掛けが推進されることを期待する。</p> <p>○管理運営分野においても、運営の効率化や財務内容の改善、施設設備の改修など計画が順調に進んでいる。運営面では適時、組織の見直し・改善が行われ、実行力のある体制となっているほか、財務面においては戦略的な外部資金の導入など優れた成果を上げている。一方で、実施が遅れている広報活動である大学認知度向上プロジェクトについて早急な対応が求められる。さらに、国の高等教育政策が急速に変化する中、教員の教育・研究に対する意識改革や財務運営の認識、理解も含め、社会環境の大きな変化に迅速にかつ柔軟に対応できる体制の確立が期待される。</p>	I 教育	A
		II 研究	A
		III 社会貢献	A
		IV 管理運営等	A
平成23年度	<p>○すべての分野において、理事長、学長のリーダーシップのもと、綿密な計画に沿って様々な施策が導入され、成果として現れつつあることは、年度計画の順調な進展を示すものであり、高く評価する。</p> <p>○教育分野については、幾つかの成果が上がりつつあり評価できる。今後とも、教職員の教育に対する深い認識と熱意をもって取り組まれたい。また、北九州市立大学の特色のひとつである語学力を活かした副専攻プログラムなど、学生にとってより良い教育環境が整備されていることも大いに評価できる。国際人養成のプログラムとして、その成果に期待する。</p> <p>○研究分野については、研究開発の「質」「量」ともに着実に向上しており、今後とも、積極的な取組みに努められたい。また、新理論の発見・展開のもと、研究開発成果が、北九州市立大学発の新製品の開発、新たな事業化戦略の実践などを経て、社会への貢献につながっていくことを大いに期待する。</p> <p>○社会貢献分野については、地域共生教育センターや地域ものづくり交流センター等、その取組みが広く社会から認められ、学生のモチベーションの向上に寄与しているなど、特筆すべき事項が多く見られ、高く評価できる。特に、今後ニーズが高まる生涯学習機会の提供や、地域の課題解決への貢献などについては、大きく期待されることである。一方、交換留学生制度の定着などについては、全学的な国際化に向け、さらなる取組みを望む。</p> <p>○管理運営分野は、大学運営に関する教職員の一致協力のもと、順調に実施され、諸計画が計画以上の成果を上げている。引き続き、管理精度の向上を図ることを期待する。</p> <p>○今年度の評価としては、順調に進展しているとしたが、今後、中期計画を着実に推進していく上では、常に繰り返し目標に立ち返り、結果を分析評価し、次へつなげるというPDCAサイクルの中で、取組みをより良い方向に進展させることが重要である。これらにより、北九州市立大学の「質」や「存在感」がより高まることを大いに期待する。</p>	I 教育	A
		II 研究	A
		III 社会貢献	A
		IV 管理運営等	A

平成23～27年度に係る業務の実績に関する分野別評価  
(分野Ⅰ：教育)

<p>【平成27年度分野別評価結果】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>5段階評価</p> <p><b>B</b></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●英語教育においては全学的な教育体制が整備され、成果が出ている。特に外国語学部英米学科においては高い成果が出ており評価できる。</li> <li>●地域人材の養成においては、起業トライアルプログラム等新たな教育を実施し、学生の地域創生力が向上している。また、地域共生教育センターなど、地域と連携した社会に開かれた学びの場も提供されており評価できる。</li> <li>●マネジメント研究科においては、2年連続して定員以上の入学者を得ている。社会的ニーズが高いソーシャルビジネス系分野の重点化に関する取組みも評価できる。</li> <li>●留学生の受入れや学生の留学など、教育の国際化も高く評価できる。</li> <li>●インターンシップ先の拡大や海外インターンシップの推進、セミナー等の支援活動により、就職率は前年度実績を上回り、高い状態で推移しており評価できる。</li> <li>●入試における実質倍率については目標値を下回っているが、前年度比較では上昇が見られる。昨今の少子化傾向など社会環境の変化の中で、目標の設定には検討の余地があると思われる。</li> <li>●大学院定員充足率の未達については長年の課題として残されており、社会のニーズを十分勘案して、根本的な見直しをする必要がある。</li> </ul>
<p>【平成26年度分野別評価結果】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>5段階評価</p> <p><b>B</b></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ファカルティ・ディベロップメント（FD）の推進等により教育体制は改善・整備され、また、「大学教育再生加速プログラム」に公立大学として唯一採択されるなど学習支援体制も充実している。特に英語教育においては、「グローバル人材育成推進事業」等により成果を挙げている。</li> <li>●「地域共生教育センター」や「まちなかESDセンター」における学生と社会をつなぐ取り組みは、公立大学として地域からの期待に応えるものであり、高く評価できる。</li> <li>●就職支援や地域活動等、大学の特色を活かした優れた教育活動を行っており、就職決定率は平成元年以降最高水準となる98%を達成している。今後もその成果に期待したい。</li> <li>●マネジメント研究科においては、中華ビジネス研究センターの設立を始め、定員以上の入学者を得るなど、諸活動は高く評価されるものである。</li> <li>●地域人材の養成におけるアセスメントについては、学生ボランティア活動など実質的な学びの状況がうまく表現されるような指標の見直しを検討する必要がある。</li> <li>●入試広報活動の努力は評価できるが、志願者数は減少している。入試戦略を改めて見直すとともに、目標値の設定や成果基準を再検討する必要がある。</li> <li>●大学院定員充足率の低迷については、社会情勢や構造的な問題も考慮して原因分析を行い、定員のあり方も含めた戦略の見直しを行う必要がある。</li> </ul>
<p>【平成25年度分野別評価結果】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>5段階評価</p> <p><b>A</b></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入試広報について計画に達していない項目もあるが、全体として学習支援、生活支援、就職支援等細部にわたり、計画通りの進行状況と考えられる。</li> <li>●北九州市立大学の特徴の一つである英語力の養成については、それを養う全般的な体制も強化され、また「グローバル人材育成推進事業」に基づく教育体制も整えられている。今後もその成果に期待したい。</li> <li>●環境人材の養成においても北九州市環境首都検定において団体として最優秀の成績をおさめている。地域創生学群についても就職率が良好で、地域貢献に役立っている。</li> <li>●一般選抜入試の志願者が減少傾向にあることは問題であり、特に理系学部の志願者を増加させるために入試広報戦略の中間評価後の施策を速やかに実行していただきたい。</li> <li>●大学院については、定員充足率などの改善など問題点への対策が徐々に進められているが、基本的な方針と育成する人材像について卒業後の進路も含めて本質的な見直しの検討を進める必要がある。</li> </ul>
<p>【平成24年度分野別評価結果】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>5段階評価</p> <p><b>A</b></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育システムの着実な改善など、全体として順調に年度計画が推進されている。教員の改革意識の高揚や優秀で熱意のある教員の受入れは、教育の充実において重要であり、今後とも、さらなる充実が望まれる。</li> <li>●北方キャンパスとひびきのキャンパスの学生の交流が実施されたことのみならず、授業においても交流が開始されたことは、より幅広い視野を学生に与えるきっかけとしても有益な取組みとして評価できる。</li> <li>●北九州市立大学の特色である英語力の養成は、副専攻プログラムが、文部科学省補助事業「グローバル人材育成推進事業」に採択されるなど、成果が上がりつつある。引き続き、グローバル人材育成の強化を図られたい。</li> <li>●環境人材を養成する「北九州学」は北九州市の特性を生かしたユニークな取組みであり、北九州市立大学としてのオリジナリティが認められる。環境スペシャリストや環境を守る意識の高い人材の育成、輩出し、これが、市民の生活の質の向上、入学志願者増加、就職率向上に結びつくことを大いに期待する。</li> <li>●地域創生学群は、北九州市立大学の注目すべき地域人材育成の取組みである。その成果の一つとして、その一期生の就職決定率が100%であったことは、評価に値する。地域に根ざす大学として、今後さらなる取組みを大いに期待する。</li> <li>●大学院教育においては、新たな大学との連携を図るなどの取組みは評価できる一方、定員充足の問題を含め、「あり方」について検討し、解決に努められたい。</li> </ul>
<p>【平成23年度分野別評価結果】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>5段階評価</p> <p><b>A</b></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学部・大学院の教育の充実、発展に向けた多様な取組みが実施され、成果が上がりつつあり、全体としては順調に年度計画が推進されている。</li> <li>●北九州市立大学の特色である英語力の全体的な養成は良好である。引き続き、取組結果を検証しながら、目指すべき目標をさらに高く設定するなど、不断の見直しを行い、世界的に活躍できる人材の育成に結びつくよう、さらなる推進を期待する。</li> <li>●副専攻プログラムなど、教育の充実や学生支援の充実のための様々な仕組みづくりが着実に実施されていることを高く評価する。その成果をよりの確に評価するため、目標をできる限り具体的な数値で示し、さらなる取組みを期待する。</li> <li>●地域創生学群は、北九州市立大学の注目すべき取組みであり、地域に貢献することができる人材の輩出が期待される。今後とも、地域、企業等と十分な交流や意見交換を行い、高い教育効果を上げることが期待する。</li> </ul>

平成23～27年度に係る業務の実績に関する分野別評価  
(分野Ⅱ：研究)

【平成27年度分野別評価結果】

5段階評価  
A

- 科学研究費補助金等外部資金の申請義務化など、数年来の取組みにより順調な成果を上げている。
- 「学長選考型研究費」や「研究基盤充実費」の新設、「特別研究推進費」の増額など、インセンティブが多く用意されたことにより、今後の研究の発展が期待できる。
- 新規創業の研究開発、介護ロボットシステムの開発など、次世代産業の創出・既存産業の高度化に資する研究が進展しており、またそれを支える体制も新たに設置されており、高く評価できる。
- 文部科学省の補助事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に代表校として申請し、採択されるなど、地域に関する調査研究が進められ、またその研究成果の地域への還元も適時行われており、北九州地域のシンクタンクとして、存在感を示している。
- 今後、市や地域の政策策定に関連する研究や、地元産業界との連携研究のさらなる発展を期待する。
- 一方、長期的な外部資金の減少に対する対応策を勘考し、若手研究者の資金獲得能力の向上に資する施策が必要である。

【平成26年度分野別評価結果】

5段階評価  
A

- 大学の特徴を活かして、環境分野や都市問題への対応に関する研究を進めており、評価できる。
- 次世代の新薬開発に向けた企業との共同研究、地元企業との共同開発による「合馬のファイバーらすく」など特色ある研究も進められ、研究成果の地域社会への還元も行われている。今後も積極的に取り組まれることを期待する。
- 研究費に関して制度改正を行い、有効利用と研究促進のための努力がなされており評価できる。今後も、北九州市の課題解決や産業促進につながる研究の発展を期待したい。
- 大型研究費獲得の努力は評価できるが、科学研究費補助金や産業界からの更なる資金獲得にも努力が必要である。

【平成25年度分野別評価結果】

5段階評価  
A

- 新エネルギー・リサイクル技術等環境に関する研究・開発では、多くの先進的な研究や実験に取り組んでおり、計画をやや上回って進捗していると評価できる。
- 付属研究機関による研究拠点の形成に関して、多様な取組みが開始され、今後の成果が期待される。
- 地域に関する研究については、地域課題研究、地域政策研究などが進められ、研究成果の社会への還元も十分に行われており、高く評価できる。
- 北九州市は都市問題の課題先進地域とも言われており、それらを研究し解決・軽減していくことは全国的な貢献をもなし得るものである。各分野における研究の発展とともに、今後も、北九州市の社会活動・経済活動に貢献する課題をテーマとして研究がさらに進められることを期待したい。また、成果を挙げている研究はしっかり継続することが重要であり、助成終了が研究終了につながらないよう検討していただきたい。
- 受託研究がやや減少している。改善努力が望まれる。

【平成24年度分野別評価結果】

5段階評価  
A

- 計画に従って、北九州市立大学の特長を生かした研究力の向上を目指し、研究拠点の形成を着実に進めている。
- 市立大学であるという視点から、研究成果については、どのように地域政策に生かすかを明確にするとともに、研究成果を地域企業との協業などによる具体的なアウトプットを創出するなど、さらなる活動を期待する。
- 環境省への提案事業が採択されるなど、北九州の都市問題や環境問題などの研究を行っていることは評価できる。今後とも、地域のシンクタンク、あるいは地域の知の拠点としての役割を果たすことに期待する。
- 大学にとって、研究水準の向上が重要であることに鑑み、教員の研究に適した環境の整備や専門的・先端的な研究者の招致などの取組みを期待する。

【平成23年度分野別評価結果】

5段階評価  
A

- 研究開発活動が着実に実施されており、計画に沿って成果を上げ、順調に推進されている。研究開発は、「質」「量」とともに着実に向上しており、今後はその成果を活用し、教育や社会貢献に寄与することを大いに期待する。
- 市や地域団体からの受託事業や受託調査等、大学の知的財産である研究活動の着実な推進など、成果が上がっている。今後とも地域課題、環境、アジアに関する研究分野については、北九州市立大学の特色を発揮して、先端的な研究を推進し、特許獲得件数や企業との連携による製品化など、より一層の取組みを期待する。
- 環境技術研究所が開設されたことは、大いに期待される取組みである。今後のニーズも高く期待される分野であるため、環境未来都市を目指す北九州市の大学として、発信力を高めるよう今後の取組みを期待する。

平成23～27年度に係る業務の実績に関する分野別評価  
 (分野Ⅲ：社会貢献)

【平成27年度分野別評価結果】

5段階評価  
S

- 地域共生教育センターやまちなかESDセンターの各種プロジェクト、また、小・中・高連携による教育力の向上、さらに大学間連携による地域教育研究機能の高度化など極めて順調に計画を推進しており、評価は高い。
- 大学間コンソーシアムにおいては、地域大学のリーダー格として際立った存在感を示している。また、文部科学省の補助事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択されており、今後大学間連携により地方創生が進められ、北九州地域の貢献に大きく資することを期待する。
- 留学生の受入れ、海外派遣留学などの社会貢献、海外大学との交流などの国際貢献も順調に実施している。
- 活動の継続や新たな取組みによって、地域に貢献する重要性を学生が体感し学ぶ貴重な機会が得られている。
- 今後、グローバル化や少子高齢化、地域創生などに対する新しい発想の活動と、更なる発展を期待したい。

【平成26年度分野別評価結果】

5段階評価  
A

- 他大学・大学院との連携による地域実践活動の実施、地域との連携による市民活動の促進などに積極的に取り組んでいる。
- 地域共生教育センターやまちなかESDセンターを拠点とした学生教育や社会貢献は、公立大学としての役割と価値を高める活動として高く評価できる。今後の活動にも期待したい。
- 高大接続のための工夫や地域の教育に大きな貢献をしている。
- 専門的知識を有する教員が関係自治体等の委員を務め、複数の地域のシンクタンクとしての役割を果たしており、評価できる。
- 留学生の派遣や受け入れが活発に行われ、グローバル人材の教育方針も計画通りに進んでいる。特に海外派遣留学生数は100名を超えるなど着実に成果を上げており評価できる。また、「海外との交流」と「地域との交流」を関係付けて、様々な取り組みを実施するなど、地域全体の国際化に大きな貢献をしている。

【平成25年度分野別評価結果】

5段階評価  
A

- 地域共生教育センター、地域ものづくり交流センター、まなびとESDステーションなど、地域と共に活動し、学生の成長も促す北九州市立大学ならではの個性的取り組みが積極的に行われている。極めて質の高い活動を行っており、高く評価される。研究的な意味での社会貢献については、市との連携をより強めることが望まれる。
- 大学間連携共同教育推進事業として、複数の大学間連携を形成し、その中で中心的な役割を果たしており評価できる。
- 生涯学習の機会提供も計画通り順調に進められている。
- 海外留学枠の拡大に努力し成果をあげている。実際の留学者数もこの枠に近づくように増加させていただきたい。また、海外大学との学術交流、留学生の派遣・受入れと社会貢献・国際貢献とが十分に結びつくよう期待している。

【平成24年度分野別評価結果】

5段階評価  
A

- 他の研究機関との連携や地域社会への貢献などの地域連携活動は、成果を上げており、地域社会への貢献として高く評価できる。
- 文部科学省の補助事業に採択された「まちなかESDセンターを核とした実践的人材育成事業」は、北九州市立大学がリーダーシップをとって、地域に根ざす活動を実施しており、今後の成果が期待できる。
- 地域共生教育センター、地域ものづくり交流センターにおける活動では、教育効果と研究成果をもって地域に貢献する仕組みが活発に機能しており、高く評価できる。
- 地元の小・中学校などに対し、北九州市立大学の授業との連携、学生ボランティアの派遣などを通して、授業・課外活動が展開されている。今後とも、小・中学生などを対象とした環境に関する体験型講座の開設など、次世代の人材育成への貢献とともに、高等学校との連携のための工夫などを通して、地域の中核となる大学としての役割を担うことが望まれる。
- 大学の国際化に向けて、海外の大学と戦略的に交流協定などを結び、教育や研究に生かしている点は高く評価できる。学部留学生の派遣、受入れは順調であるが、その後の教育の充実、並びに大学院生の留学についても取り組まれない。

【平成23年度分野別評価結果】

5段階評価  
A

- 教育・研究の成果と社会貢献に関する様々な魅力ある取組みが、市民や受験生等に評価され、このことが「地域貢献活動部門賞」（福岡県主催）の受賞にも反映されている。また、全国大学の地域貢献度ランキング（日本経済新聞社）において、総合1位に選ばれたことは、市民にとっても誇りであり、大いに評価したい。
- 地域連携による市民活動促進等への貢献については、地域共生教育センター、地域ものづくり交流センターなどの機能が効果的に動き始めるなど、市民の学習意欲の充足に資する取組みであり高く評価できる。引き続き、公開講座の開催などの生涯学習機会の積極的な提供を通して、より一層の社会貢献を望む。
- 社会貢献にかかる種々のプログラムの実施により、分野全体として順調に年度計画が推進され、非常に高く評価できる。今後は、企画や活動実績等を広くPRし、大学の評価向上等につなげられたい。
- 全学的な国際化推進体制の整備や海外派遣留学に関しては、引き続き、積極的な取組みを通して、さらなる進展を期待する。

平成23～27年度に係る業務の実績に関する分野別評価  
(分野Ⅳ：管理運営等)

【平成27年度分野別評価結果】

5段階評価  
A

- 学部長等の業績評価、戦略的予算配分、さらに事務局再編、事務局業務の効率化、そして人件費の適正化など計画を着実に実施している。また、「大学機関別認証評価」を受け、高い評価を得ている。
- 内部規程等の改正、学内運営体制の強化など、大学ガバナンス改革が随時進められている。
- プロパー職員の採用やスタッフ・ディベロップメント、ファカルティ・ディベロップメントの実施など、組織マネジメントは順調に改善されている。特に学長や執行部のリーダーシップは評価できる。
- 外部資金については各課から収入増加策の案を募るなどその努力は評価できる。今後新たな収入につながることを期待する。
- 施設の老朽化については、更新・耐震化が進んでいる。新図書館については、今後、様々なかたちで学生や地域による利用が活発化する施設として発展することを期待したい。
- 一方、各地で自然災害、事故・事件、情報漏洩などが発生している中、リスクマネジメントやICT戦略については、今後の課題として認識する必要がある。

【平成26年度分野別評価結果】

5段階評価  
A

- 中期計画・年度計画を超えて、大学ガバナンスの強化が図られており、さらに学長の業績評価を実施するなど、努力していることは評価できる。
- 学内運営を改善するための組織が適時状況に応じて見直されており、プロパー職員の計画的増員、教育や研修の実施による職員の資質向上、グローバル化の推進に向けた国際化推進室の設置など、体制改革に取り組んでおり評価できる。
- 全教職員が財務運営につき、関心・認識を持つことによって、独立行政法人としての管理運営が強化されることを期待する。
- 特に、外部資金については、今後、新たな研究分野を開拓するなど、教職員が一体となって努力する環境の醸成が望まれる。

【平成25年度分野別評価結果】

5段階評価  
A

- 各種委員会等学内組織も整備され、管理運営は全般的に順調である。運営の効率化策や財務内容の改善策も着実に遂行されており成果をあげていることを評価する。昨年課題ともなっていた大学の価値や活動についての認知度を向上させることが重要という認識のもと生まれた「ブランディング検討ワーキンググループ」が、今後の戦略的なブランディングに大きく寄与していくことが望まれる。
- 役員会や経営審議会等による学内のガバナンスと外部評価委員会等による評価及び行政による管理運営上の支援が有機的に機能している。
- 法令遵守のための研修や、リスクマネジメント啓発策などが計画に沿って実施されている。さらに、その成果（法令遵守状況、リスクの発生状況）についても把握し撲滅に努められたい。
- 職員については、中長期の大学運営を見据えた人員配置、教育研修を着実に進めており評価できる。
- 外部資金の獲得については目標を超えており評価できるが、やや減少傾向にある。大学は、外部資金の獲得について多様な戦略を創ることが望まれる。

【平成24年度分野別評価結果】

5段階評価  
A

- 大学運営の効率化、財務内容の改善、各種情報のデータベース化などが着実に実施されており、管理面での効率化、サービス性の向上、管理精度の向上が計画通り進められている。
- 戦略的に多角的な外部資金を獲得している。また、その申請を支援する体制なども整備されていることが評価できる。
- 研究と教育の両面にわたる向上・充実を図ることが、効率的な管理運営に結びつき、より水準の高い、大学運営が実現できる。今後も継続的に効率のかつ効果的な管理体制への進展を期待する。
- 大学認知度向上のための広報活動の実施が遅れている。大学の価値や活動を対外的に認知してもらうことは大学の将来のあり方に関わることであるので、ブランド戦略の検討に注力していただきたい。
- 中長期を見据えた人材配置、教育は評価できる。今後、小規模な大学で職員のキャリアパス（他機関との人材交流を含めた人材育成計画）をいかに形成するか大きな方針について検討されたい。

【平成23年度分野別評価結果】

5段階評価  
A

- 管理精度が向上し、努力が実りつつあり、極めて順調に推進されている。
- 科学研究費補助金など外部資金の獲得については、目標を大きく上回り、高く評価できる。今後、より高い成果を追求するためにも目標の上方修正を期待する。
- 教育・研究の充実を図り、地域社会に根ざし、時代をリードする人材の育成などを目的とした「北九州市立大学基金」の設立は、高く評価できる。今後、活動に広がりを見せ、地域に愛され、支持される大学となっていくことに期待する。
- 市派遣職員の大学正規職員への転換の推進については、順調に計画が推進され、評価できる。今後は、正規職員の能力向上、法令遵守やリスクマネジメントなどは大学運営に不可欠であり、引き続き、チェック機能の強化を通して、コンプライアンスの徹底を図ることにより、大学の良好なイメージの向上を図られたい。